

モデル地区における藻場造成試験実施状況について【ワカメ】

1 試験の概要

- (1) 事業実施者：宮城県ブルーカーボン協議会事務局
(フィッシャーマン・ジャパン委託)
- (2) 試験対象種：ワカメ
- (3) 実施場所：①気仙沼市階上
②南三陸町歌津
③石巻市十三浜
- (4) 実施期間：令和4年11月から継続中



2 取組状況

三陸ワカメの県内主産地である3エリア（気仙沼市階上、南三陸町歌津、石巻市十三浜）をモデル地区に選定した。実施主体の漁業者向けに年間のタイムテーブル、操業日誌、ワカメ養殖の規格や定期的な成長計測などの説明をおこない、実地データの取得が始まったところである。令和4年12月19日に気仙沼階上で調査したので、その時の状況を記載します。

(1) 気仙沼市階上の事例

- ・地種を使用している内湾（ダブル 54m）と北種を使用している外湾（シングル 100m）をモデル設定
- ・ワカメ筏の両端と真ん中からワカメ5本をランダムに採取して全長と湿重量を計測
- ・早期出荷を狙いとする内湾（地種）で成長の早さを確認、外湾（北種）は3月の出荷を見込みます
- ・階上では月に1回の頻度で計測を行い、ブルーカーボン算定の基礎データとします。



内湾ワカメ①



内湾ワカメ②



外湾ワカメ①



外湾ワカメ②

表 ワカメの計測記録

	内湾（地種）		外湾（北種）	
	全長 (cm)	重量 (g)	全長 (cm)	重量 (g)
サンプル1	150	294	30	6g
サンプル2	110	84	20	4g
サンプル3	137	128	15	2g
サンプル4	105	66	7	0g
サンプル5	82	82	7	0g

(2) 現場説明と調査から抽出された課題

- ・ワカメ養殖のブルーカーボン算定にあたり、生産戦略の違いに伴い、使用する種、収穫する部位（葉ワカメ、雌株）、養成期間、海域などが異なるため、高い評価を得るために生産プロセスの把握は必須
- ・ブルーカーボンクレジット向けには温暖化対策のためのワカメといったストーリーの策定が必要、計測においても手引きに複数事例のある計算方法からデータ取得に合わせて見合った方法を選択することが求められます（ドローンによる空撮なども客観性確保や船舶燃料消費の算定も補強ポイント）
- ・そもそもの疑問として、食糧として生産したワカメがブルーカーボンに適合するのか？の問いかけが現場から聞かれ、考え方の整理が進められなくてはならないことが分かりました。

3 今後の計画

- ・モデルとした3地区において、ブルーカーボンクレジットへの申請に向けたデータ取得を継続して実施します。